

獣 医 界 で 最 近 思 う こ と

市川陽一郎[†] (いちかわ動物病院院長・千葉県獣医師会副会長)

千葉県の東京都と接する松戸市で動物病院を開業して24年目になる。学生時代は、研究室で皮膚科を、医学部で脳神経を学び、開業してからは整形外科、循環器、画像診断(CT)、腹腔鏡手術と雑多に手を染めてきた。一番続いているのは眼科で、今も大学に在籍し、アメリカ獣医眼科学会(ACVO)の年次大会にも2007年からほぼ毎年参加している。専門分野を一つに絞れなかったもので、どれも中途半端のような気がするが、自分なりに領域を設定し、遅れないように努力している。専門医制度が確立する前だったので色々手を広げることができたのかもしれない。

1 飼い主と動物の高齢化

松戸市も類にもれず成熟した街で、飼い主、飼育動物ともに高齢化し、動物を亡くした方が、再び動物を飼うことを躊躇することが、多くなった気がする。全国的に飼育頭数の減少が伝えられる一方、相変わらず殺処分される動物は多い。飼育が困難になった動物と子犬子猫を飼うことをためらう方をマッチングする機会をさらに増やすために少しでも力になればと思う。また県内でも最近いくつかの老犬ホームができています。安定した運営と質の高い老犬ホームが増えると、高齢者が動物を安心して飼育できる機会が増えるかもしれない。一方、動物の飼育できる集合住宅は当たり前になってきたが、動物と一緒に入居できる老人施設はまだ少ないようだ。こうした施設が増えることと同時にCAPP活動が普及することを願っている。

2 動物看護師

今年は動物看護師統一機構の認定試験の移行期の措置の最後の年で、当院の看護師も申請のため、セミナーに参加したり、試験に備え勉強したり忙しい日々を送っている。資格を取得していない者は少なくなってきた。基本的に来年から新規の受験資格は動物看護系の学校を卒業した者に限られる。現在動物看護師は全国で約2万人いるといわれている。そして、年間に動物看護系学校(認定校以外も含めて)の卒業生は約2,000人といわれている。ただし、4年生大学の場合、動物病院に勤務する学生は5割くらいで、中には3割といった学校もある。

単純に都道府県数で割ると、ひと県あたり20~30人、離職率も高いので、獣医師と同じように偏在が起きないか危惧している。制度と趣旨には賛成であるが、慎重な取り組みをお願いしたい。

3 「地域ねこ」活動

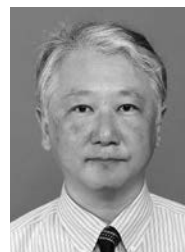
私の所属する(公社)千葉県獣医師会、(公財)千葉県動物保護管理協会は千葉県健康福祉部衛生指導課と共に、飼い主のいない猫に対して、「地域ねこ活動」を行っている。「地域ねこ」とは、地域の理解と協力を得て地域住民と合意が得られている特定の飼い主のいない猫のことである。その地域に合った方法で、管理者を明確にし、餌や糞尿の管理、不妊去勢手術の徹底、周辺美化などの地域ルールに基づいて適切に管理し、これ以上数を増やさず、一代限りの生を全うさせる。地域住民が主体となり、ボランティア及び行政が協同して実施している。「地域ねこ」はハードルが高く、それ以外の従来からの飼い主のいない猫に関する活動も並行して行われている。こうした活動は獣医師会会員の協力で行われている。残念ながら、千葉県の猫の殺処分頭数は減少しているとはいえ、まだ全国では上位である。5年単位の目標数はクリアしているので、さらに上の目標を目指したい。

最後に昨年度、日本獣医師会の獣医学術年次大会を千葉で開催できたことは大変な喜びである。無事終了できたことを、全国の会員、関係者の皆様にご感謝申し上げたい。

市川陽一郎

一略 歴一

1986年 麻布大学獣医学科卒業
 1988年 麻布大学大学院 修士課程修了
 1991年 いちかわ動物病院開院
 現在 (公社)千葉県獣医師会副会長
 (公財)千葉県動物保護管理協会理事長
 千葉県動物愛護推進協議会会長
 (公社)日本動物病院協会東日本代表ディレクター
 日本小動物獣医学会(関東地区)幹事



[†] 連絡責任者：市川陽一郎 (いちかわ動物病院)